



Social Welfare Corporation

KUJIRA



ほけんだより 9月号

発行日：令和5年9月1日

廿日市くじら保育園



廿日市くじらのHPもご覧ください

夏が過ぎ、ひと回り大きく、たくましくなった子ども達。まだまだ続く暑さの中で、元気に水遊びや外遊びを楽しんでいますが、夏の疲れが出てくる頃です。毎日の体調の変化に気をつけましょう。

9月1日は防災の日

防災の日は、1923年9月1日に起きた「関東大震災」に由来しており、今年は100年の節目の年となります。災害大国と呼ばれる日本。9月は日本の台風シーズンでもあります。この機会に、避難場所の確認や、防災グッズの点検を行い災害に備えましょう！



① ハザードマップの確認

周辺の災害リスクの確認、避難経路・避難場所の確認

② 家の中の防災対策

転倒すると危険な大型の家具は、壁に固定できるグッズなどを活用して固定すると安心。寝室や子ども部屋には、できるだけ背の低い家具を！

③ 災害アイテムの準備・点検

災害時にはライフラインが絶たれ、支援体制に時間がかかることがあり、概ね3日間はおかると言われています。飲料水、非常食は最低3日分×人数分を準備しましょう。（飲料水は一人1日3リットルを目安に！）

年に1度は賞味期限などのチェックを行いましょう。



★飲料水・食料（人数×3日分）

・・・アルファ米、カップ麺、缶パン、缶詰、レトルト食品など

★粉ミルク・哺乳瓶・紙おむつ

★貴重品（現金・通帳・印鑑・保険証など）

★モバイルバッテリー

★懐中電灯

★携帯ラジオ

★簡易トイレ・トイレトーパー

★防寒具・カイロ

★スリッパ・軍手

★救急用品・薬

★タオル・下着

★ウェットティッシュ

受診すべき？ 迷った時は

夜間や休日に子どもの具合が悪くなったとき、すぐに休日診療所や救急外来を受診すべきかどうか迷います。自己判断で、急ぐ必要のない受診をしたり、反対に急を要する状態を見逃したりしないよう、信頼できる相談窓口やアプリを登録しておきましょう。

子どもの医療でんわ相談

365日受付
午後7時～翌朝8時

#8000（全国統一の短縮番号）

または 082-505-1399

広島県の相談窓口につながり、小児科医や看護師から、症状に合わせた対処法や受診の必要性、受診する病院についてのアドバイスが受けられます。

子どもの救急（ONLINE QQ）



厚生労働省研究班と日本小児科学会の監修によるウェブサイトです。対象年齢は生後1ヶ月～6歳。発熱、嘔吐、けが、誤飲など、気になる症状から細かいチェックリストに進み、受診の要不要を判定。看病のポイントも紹介されています。



先月の子ども達の様子

手足口病
コロナウイルス感染症

の発症がありました。

